デジタル市場競争会議ワーキンググループ
モバイルOSに関する考察

2021年9月7日

一般社団法人モバイル・コンテンツ・フォーラム
専務理事　岸原　孝昌

MCF
Mobile Content Forum

将来展望

- インターネット業界をはじめ　自動車、家電等あらゆる業界もハードからサービス産業へ
- インターネット業界では、アバターを利用して生活する3次元仮想空間サービスのメタバースが興隆してきている。

レッシグの4類型

- 人の行動に影響を与える要素（規制）は、「法」、「社会規範」、「市場」、「アーキテクチャ」に分けられる。
  - Lawrence Lessig（山形浩生 訳）（2007）『CODE VERSION2.0』
- OSは、アーキテクチャに分類され、サイバー空間では、「完全な規制を実現できる法」として機能する。Ex:Apple法

寡占化されたデジタルプラットフォームでの新たな課題

- 独占による産業界の格差・搾取が発生しているのではないか？
- データ独占によって個人の意志がコントロールされているのではないか？

モバイルコンテンツ業界20年の知見

- 競争環境を維持するためには、「相互運用性の確保」「多様性の確保」が重要である。
  - 総務省（通信プラットフォーム研究会）（2009/1)
  - 総務省「モバイルコンテンツビジネスを促進するプラットフォームのオープン化等に関わる技術要素及び制度の調査研究」（2015 MCF受託）

- モバイルコンテンツビジネスにおけるプラットフォーム機能として、「ポータル」「認証」「課金」の3機能が必須である。

- 日本において、行政、プラットフォーム事業者とコンテンツ事業者による対話型協議（モバイルプラットフォーム協議会）によって、標準ガイドラインを取りまとめてオープン化を実現した。
  - コンテンツ掲載基準（リンクアウト含む）
  - 認証課金

社会全体の利益向上のため
エッセンシャルファシリティのオープン化

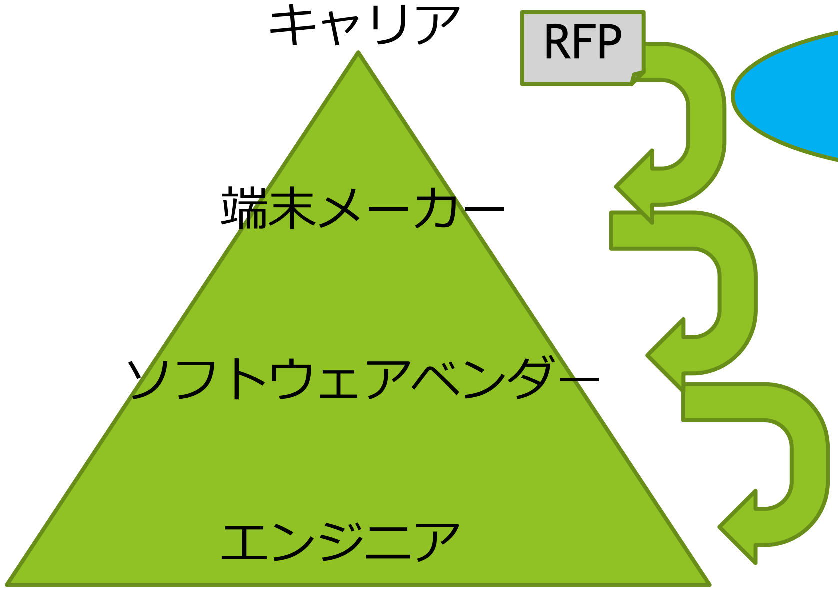
スマートフォンOSでの現状

- iOS
  - ポータルから認証、課金までが垂直統合されており、多様性の確保が必要
- Android OS
  - OS、ポータル(付随した認証、課金）においては、一定の多様性が確保されている。
  - Googleに認証されていないポータルのアプリについては、セキュリティの制限があり、相互運用性の確保が必要

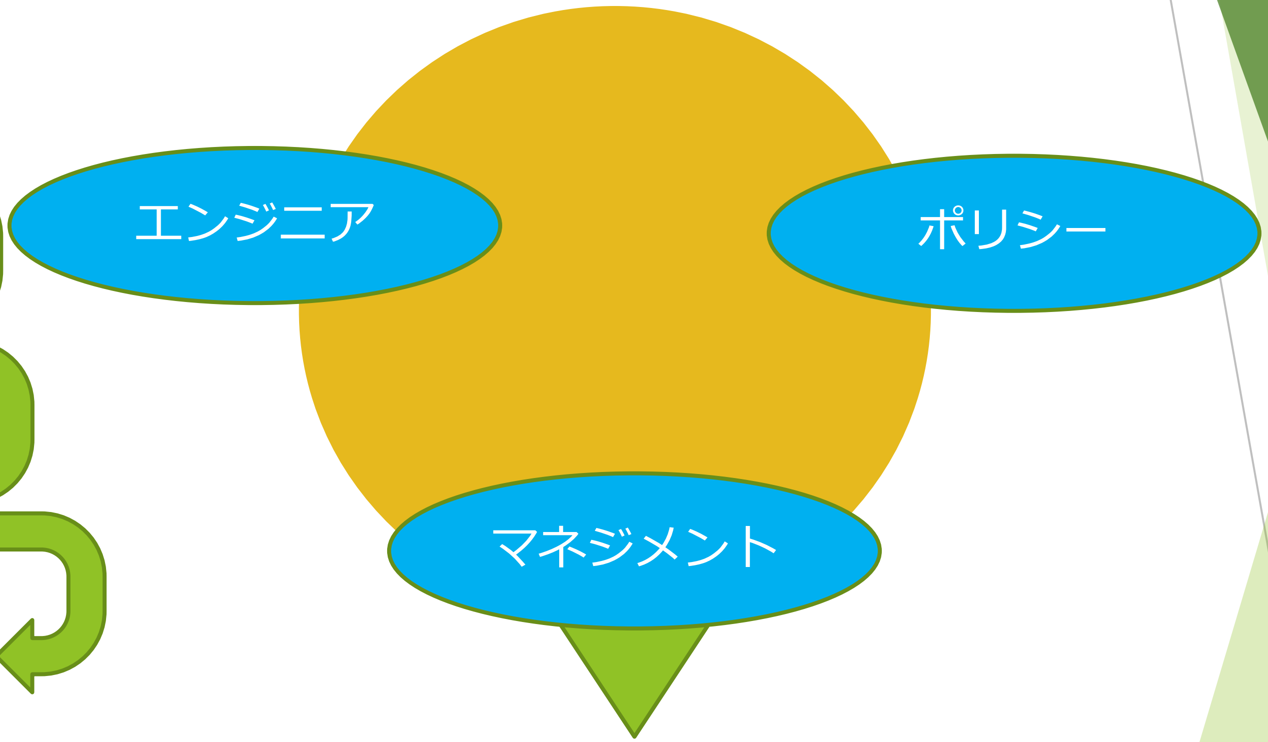
多様性確保と相互運用性確保のための方策

- セキュリティ(アプリストアのセキュリティ要件)
  - ITU-T X.1120-X.1139 series – Supplement on a secure application distribution framework for communication devices（2014/09)
- 多文化の尊重(iOSの青少年向けフィルタリング機能)
  - スマートフォン等のグローバルプラットフォームにおける我が国の子ども向けWebコンテンツに関する研究報告 (2021/03 MCF「青少年コンテンツ研究会」)

日本のモバイル業界の失敗



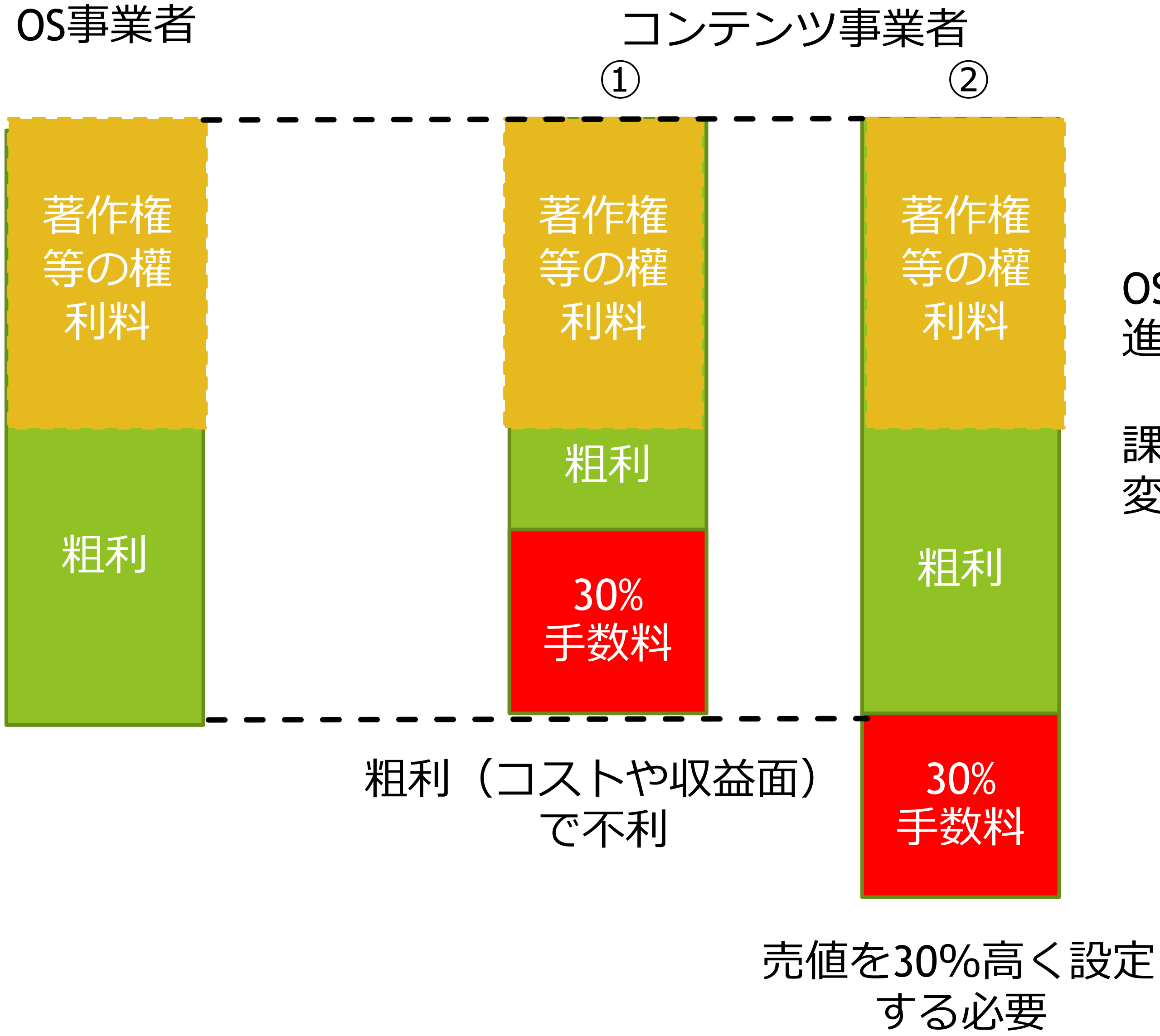
ガラケー



スマートフォン

OS開発手法の違い

音楽・書籍・映像等リーダーアプリの構造



OS事業者がコンテンツレイヤーに進出すると、不公正な競争環境。

課金のオープン化or公正な課金料率への変更が必要。

9月2日のAppleの対応について

音楽配信事業等に加え雑誌配信事業及びニュース配信事業について、リーダーアプリからの外部課金をオープン化する。

多様性の確保という点では一定程度評価されるが、競合したコンテンツ事業者を不当に制限したものが一部解消されたという理解である。リーダーアプリで提供しているコンテンツの多くは、既に外部課金を利用していることから、リンク制限の緩和くらいのインパクトしかない。

グローバルで、課金の強制や課金手数料の公正性に関する議論がはじまったばかりであり、独禁法上の問題は一部しか解決していない。
競合の排除や同意原則等の既存の判断基準だけでなく、独占事業者であるOS事業者の行為の公正性という観点から、公正取引委員会は調査を継続すべき。

プラットフォーム事業者との共存共栄が必要

プラットフォームの積極的な活用と
オルタナティブの育成
and
プラットフォームの構造による課題に
対応する規制

のバランスが必要

望ましい法制度は？

法的安定性と柔軟性を両立するため
インセンティブとエンフォースメント
が機能したバランスが取れた
共同規制

Appendix

日本版イノベートアメリカの提案

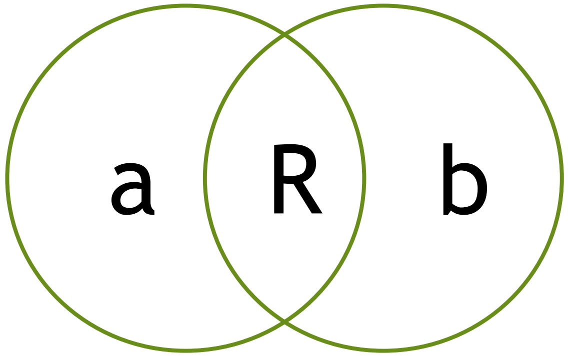
「ヤングレポート」をひきつぐ形で、2004 年に米国で出された「イノベートアメリカ」（通称「パルミサーノレポート」

イノベーションを生態系としてとらえ、人材、投資、インフラに関する政策提言が為されている。イノベーションの思想では、対抗あるいは矛盾していると考えられる原理が共生的なものになってきているという一大旋回が示されている。

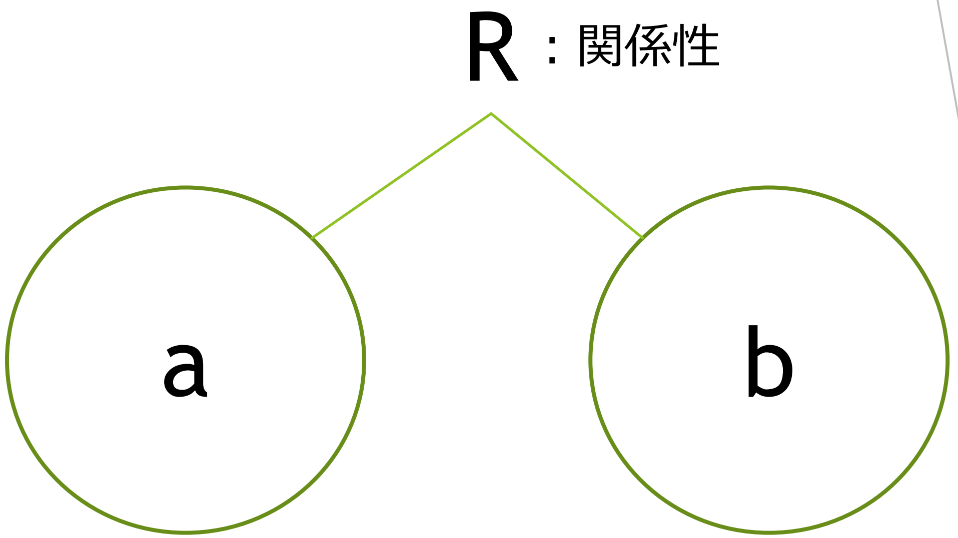
（主な提言）
ユーザーと生産者の双方向性、知財の保護と公開、製造活動とサービスとの結合、学問分野での多原理的、多元論としてのマルチディシプリナリー、民間と公共の役割分担、中小企業と大企業の役割分担、国家安全保障と科学研究の開放性、ナショナル化とグローバル化の二重性

「立命館国際研究　23-1(June 2010)」　立命館大学名誉教授　関下稔

文化的指向性



インティマシー



インテグリティー

トマス・カスリス「インティマシーあるいはインテグリティー　哲学と文化的差異」より引用